

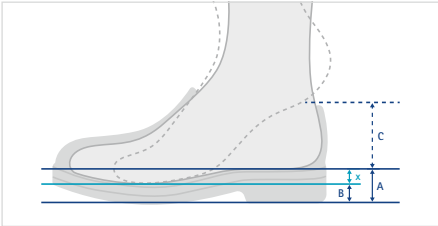
装具士:	_____	会社:	_____
顧客番号:	_____	データ:	_____

患者の個人データは、注文処理と統計学的評価のために保管・使用されますのでご了承ください。
装具の荷重容量の計算は、ここに記入されたデータに関連付けて行われます。このデータは、装具を利用しているうちに変わることがあります。この装具療法シートに記入する際は、今後考えられる変化を考慮に入れてください(例: 体重変化、筋肉強度の成長や変化)。

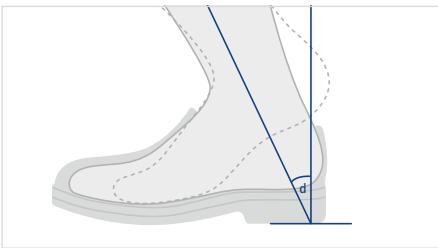
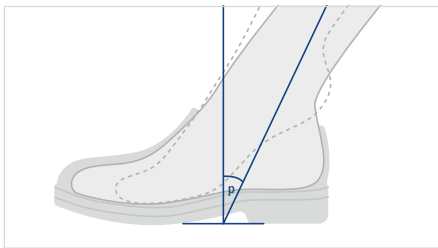
患者データ

患者氏名	生まれた年	体重	脚
		kg	左脚 右脚
データプライバシーの目的のため、下の名の最初の2文字と、名字の最初の2文字のみを記入してください。	性別	身長	左右の足で以下の点が異なっている場合は、装具療法シートを2枚使用してください。
	女性 男性 その他	cm	

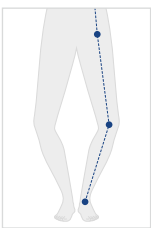
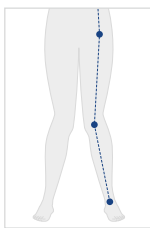
靴の測定

靴サイズ (EU)	(足の寸法 + 1.5cm) x 1.5	
	踵高さ (A)	ピッチ (x = A - B)
	mm	mm
	靴底厚さ (B)	高さ補償 (C)
	mm	mm

上側足関節の運動範囲

	背側		底側
---	----	--	----

膝レベルの不安定性/変形

生理学的位置		伸展の制限	
内反変形			
最大	装具装着時の推定	最大	装具装着時の推定

検診によるAFOまたはKAFO

www.orthosis-configurator.com

生理学的運動範囲

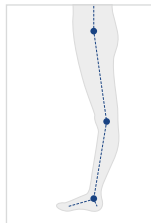
過伸展

最大

装具装着時の
推定

○

○



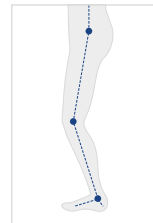
伸展の制限

最大伸展

装具装着時の
推定

○

○



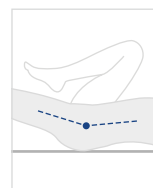
股関節レベルの不安定性/運動制限

生理学的運動範囲

伸展の制限

最大伸展

○



検診時に立つことができるか (補助が必要な場合も含む)

検診は患者が (少なくとも部分的に) 立った状態で行うことができる。

はい

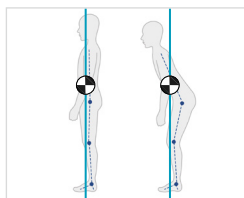
いいえ



鉛直線の経路 (身体の重心から)

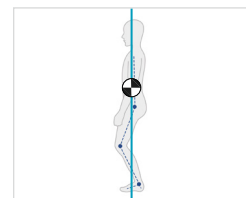
鉛直線が膝の回旋点を通る、または膝の回旋点より前を通る。

これは、重度の伸展制限の場合に起こることがあります。これは例えば、身体を前に曲げることで補償することができ、また装具で補正することが可能です。



鉛直線が膝の回旋点より後ろを通る。

これは、重度の伸展制限の場合に起こることがあり、装具で補償や補正することはできません。



6分間歩行試験を行う前の筋肉強度 (Jandaによる分類)

股関節屈曲

股関節伸展

0 1 2 3 4 5

0 1 2 3 4 5

膝関節伸展

膝関節屈曲

0 1 2 3 4 5

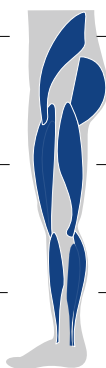
0 1 2 3 4 5

背屈

底屈

0 1 2 3 4 5

0 1 2 3 4 5



0 (ゼロ)

完全まひ、収縮の微候なし

1 (わずか)

若干収縮するが、関節は動かない

2 (不良)

重力がかからない状態で完全な運動範囲

3 (可)

重力に対抗して完全な運動範囲

4 (良)

ある程度の抵抗と重力に対抗して、完全な運動範囲

5 (正常)

フル強度の抵抗と重力に対抗して、完全な運動範囲

6分間歩行試験 (6MWT)

この試験は、筋肉疲労を引き起こすためのものです。最初の筋肉機能検査の後に行う必要があります。6MWTの直後に2回目の筋肉機能検査を行って、筋肉疲労を考慮に入れた筋肉強度を測定します。

完了 右記経過後に中止 _____ min
歩行合計距離 _____ m = 経路を歩いた回数: _____ X 経路の距離: _____ m



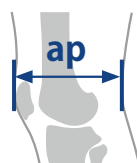
6MWTの後の筋肉強度 (Jandaによる分類)

0 (ゼロ) 1 (わずか) 2 (不良) 3 (可) 4 (良) 5 (正常)

股関節屈曲	0 1 2 3 4 5	股関節伸展	0 1 2 3 4 5
膝関節伸展	0 1 2 3 4 5	膝関節屈曲	0 1 2 3 4 5
背屈	0 1 2 3 4 5	底屈	0 1 2 3 4 5



Ap測定値 (KAFOの膝の機械的旋回点)



mm

活動レベル



1. 屋内歩行

患者は、装具を使って、平らなところをゆっくり移動することができるか、または移動できるようになる可能性がある。身体的な障害により、ごく短距離・短時間の歩行が可能である。



2. ある程度の屋外歩行



3. 無制限の屋外歩行

患者は、普通～早足の速度で、および変化する速度で、歩いて移動することができるか、または移動できるようになる可能性があり、ほとんどの環境障害物に対処することができる。さらに、患者は自然環境を歩くことができ、装具に対する平均以上の機械的荷重をかけない程度の、職業的活動や治療的活動、その他の活動を行うことができる。



4. 高強度の無制限屋外歩行

患者は、装具を使って、無制限の屋外歩行で移動することができるか、または移動できるようになる可能性がある。さらに、機能要求が高いことから、装具に対して高い衝撃荷重、張力、変形力が生じる可能性がある。主にアスリートと子供が該当する。

装具の要件



1日当たり歩く階段の段数

< 10 11～50 > 50



1日当たり歩く高低差 (m)

< 10 11～50 > 50



患者は、片手で安全にシステム足関節に手が届く。

はい いいえ